

県確認調査概要（改善措置報告の内容確認）

1 調査日時

平成26年5月28日（水） 午前10時から午後5時30分まで

2 調査方法

県職員6名で3班（各施設2名）を編成し、各施設（養育園・更生園・アドバンスながaura）の調査を実施

- （1）ヒアリング
- （2）関係資料確認（改善に係る進捗状況が確認できるもの）
- （3）支援状況、施設環境視察

3 ヒアリング

施設長ほか、各施設別に複数の支援員に対して実施。支援員のヒアリングは施設長等他者の同席はなく、県職員と相対で個別に支援現場の状況等を聴取（下（2）②の者は事前に定めず当日朝に県側で対象者を指名）。

- （1）施設長等（聴取時間 約2～3時間）
 - ・養育園、アドバンスながaura：各施設長
 - ・更生園：マネージャー
- （2）支援員等（聴取時間 約30分）
 - 各施設2名
 - ① 施設におけるリーダー的支援員
 - ② 支援員

4 調査スケジュール概要※

時 間	調 査 内 容 等
10:00～10:15	○【全体】法人の概要説明
10:15～11:45	○各施設長等ヒアリング
11:45～13:45	○関係資料確認[各施設長等対応]
13:45～14:45	○支援員（2名）ヒアリング（1人約30分）
14:45～15:45	○施設視察[各施設長等対応]
15:45～16:15	○県担当者、確認結果等打合せ
16:15～16:45	○【全体】総括

※当日は時間を延長し5時半まで実施

袖ヶ浦福祉センター等改善状況調査（概要）

【 養育園 】

1 改善状況で評価できる点

○研修・人材育成について

- ・虐待に関する研修について、年度当初に全職員への実施が確認された。
- ・グループディスカッションによる少人数の勉強会などの取組みを進めている。
- ・新任支援員に「支援・業務ノート」を記録させ、リーダーがコメントを入れて指導・助言している。

○職員の意識について

- ・「第三者委員等が施設内を巡回するなど、外部の目が入ることにより、いい意味での緊張感が生まれた」との話を聞くことができた。

○職員配置体制について

- ・2寮にスキルの高い職員を配置し、夜勤を2人体制にするなど支援体制の強化を図った。

○入所支援計画（モニタリング）について

- ・入所支援計画書に、利用者・家族の希望を記載する項目を設けるなど書式変更したことにより、より具体的できめの細かい支援計画を作成できるようになった。
- また、各職員に支援計画書の写しを配付したことにより、各職員が全ての入所者の情報を共有し、支援の質の向上が図られるようになった。

○幹部による現場の把握について

- ・施設長が毎日施設内を巡回し、登下校時の声掛けを行っている。

○診療室との連携について

- ・看護師が毎朝支援日誌を確認し、朝夕には施設内を巡回するようになったため、入所者の異変に際し迅速な対応ができるようになった。
- また、モニタリング会議には必要に応じ医師、看護師、栄養士が参加し、配薬業務は看護師と支援員が一緒に行うなど、医療面での安全性が確保されるようになった。

2 今後も継続的に改善を必要とする点

○研修について

- ・虐待に関する研修については引き続き継続的に実施することとし、適正な支援のあり方等、より実践的な研修となるよう内容の見直しを図ること。

○事故報告書について

- ・報告書の作成者により記載内容にばらつきがみられるため、適正な記載方法について指導を行うこと。

○職員間の情報共有について

- ・班を超えた情報共有が不十分であるため、事故報告（防止策）やパーソナルサポーターからの助言等について、組織としてリアルタイムで共有できる体制を整備すること。

○施錠のあり方について

- ・施設の開放性の担保と利用者の安全確保の両面に配慮しながら、真に施錠が必要な箇所や時間帯等について、検討すること。

3 その他（あらたに改善を必要とする点等）

○特になし

袖ヶ浦福祉センター等改善状況調査（概要）

【 更生園 】

1 改善状況で評価できる点

○研修・人材育成について

- ・虐待に関する研修について、年度当初に全職員への実施が確認された。
- ・グループディスカッションによる少人数の勉強会などの取組みを進めている。
- ・新任支援員に「支援・業務ノート」を記録させ、リーダーがコメントを入れて指導・助言している。

○職員の意識について

- ・職員から、「事件を経て色々と批判もあり、辛い状況もあったが、4月に体制が変わり、改めて自信を持って前向きに支援に取り組むことができている」との話を聞くことができた。

○個別支援計画（モニタリング）について

- ・医療的ケアが必要な利用者の場合は看護師、普通食でない利用者の場合は栄養士が参加するなど、利用者の特性に合わせたモニタリングが行われるようになっている。

○ヒヤリハット、事故報告について

- ・事故報告進行管理表を新たに作成しサブマネージャーが進行管理を行うとともに、リーダーを主任支援員がフォローする体制とした。

○診療室との連携について

- ・朝の引継ぎ時にその日の看護師の業務場所を確認しており、利用者の異変時に支援員が速やかに看護師に相談できるようになっている。

2 今後も継続的に改善を必要とする点

○研修について

- ・研修実施後、研修内容に関するアンケート調査が実施されているので、その結果を活用して理解度を確認するとともに、継続して繰り返し研修を実施すること。
- ・グループディスカッションは、現時点で開催が2回であり、延べ参加人数もまだ少ない状況であるので、継続して取り組むこと。

○幹部による現場の把握について

- ・マネージャーは毎日現場に出ているが、施設全体を把握できるよう定期的な巡回を行い、その際は、よりきめ細かく支援状況の確認などに踏み込んで対応すること。
- ・施設長は、理事長・養育園施設長等兼務であり、対応が難しいことは想定されるが、各寮の巡回を行えていないので、今後なるべく実施していただきたい。

○職員間の情報共有について

- ・第1支援グループと第2支援グループ間での情報共有が不十分であるため、組織として共有できる体制を整備すること。

3 その他（あらたに改善を必要とする点等）

○利用者への与薬について

- ・不穏時薬の与薬について、事後に看護師がその必要性を確認するなど、医療職が状況を把握できる体制を検討すること。

袖ヶ浦福祉センター等改善状況調査（概要）

【 アドバンスながうら 】

1 改善状況で評価できる点

○研修・人材育成について

- ・虐待に関する研修について、年度当初に全職員への実施が確認された。
- ・立場が違う職員間でグループ討議を取り入れることにより情報交換ができ、日常支援の中の「気づき」の場となり、有効であったこと。
- ・新任支援員との対話以外に、「支援・業務ノート」を記録させ、施設長・リーダーがコメントを入れて指導・助言している。

○職員の意識について

- ・職員が利用者の権利擁護について、緊張感をもって支援にあたっている。
- ・グループ討議をとおして、支援の気づきにつながったり、幅広い（多様）見かたができるようになったりするなど、職員の意識が高まってきている。

○第三者委員の施設巡回について

- ・訪問時に利用者と対話し、内容を施設長から支援員までフィードバックし、職員の共通理解が図られている。

○個別支援計画（モニタリング）について

- ・モニタリング会議では看護師、栄養士も同席して確認しており、医療面での専門的分野を保護者に説明することで、保護者の理解が増し、信頼感がより深まった。

○診療室との連携について

- ・看護師が朝巡回をすることで、利用者の状況把握ができ、外部診察との調整も迅速に対応可能となった。看護師と利用者がコミュニケーションを図れることで、利用者の診療室への抵抗感が少なくなった。

2 今後も継続的に改善を必要とする点

○幹部による現場の把握について

- ・施設長は、欠員補充でほぼ毎日支援に入り、利用者や支援員の状況を把握しているが、施設全体を把握できるよう、定期的な巡回を行うこと。

○職員間の情報共有について

- ・事故報告（今後の対応）については職員会議等で確認しているが、他寮の事故については十分に認識されていないため、全職員の認識を高めるための策を講じること。

3 その他（あらたに改善を必要とする点等）

○利用者への配薬・与薬について

- ・看護師は、処方された薬の数を確認しているが、配薬に当たっても支援員と連携し、薬剤管理に携わること。また、日誌の確認等により、与薬状況を把握すること。